



ウェルチによるGEの再生と拡大

これからの日本にこそ輝く ジャック・ウェルチの経営

彼は1981年から2001年までGE会長でCEOでした。写真は彼がCEOに就任した頃、私が野村証券の役員時代に、ある仕事の仲介の際、記念に撮ったものです。以来長い間ご教示いただくことばかりで、心から尊敬しています。

彼はCEOに就任するや色々な経営哲学を打ち出しました。GEは総合電機として何でもやっていたわけですが、それをそのまま時間をかけて蝸牛角上の合理化をするのではなく、収益向上の見通しが立たないか、業界で1、2位になる見込みのない部門はほとんど売却し、収益部門の徹底的な合理化と戦略性をもった買収によって規模拡大

を猛スピードでやり遂げることに成功し、収益の拡大を図りました。これは途上国の発展に応じた国際分業への対処でもありましたが、彼の任期後半は米国そのものが脱工業化社会への対応が急務となり、その対応として彼は金融事業に注力することにしました。徹底した買収戦略により拡大を続け、思い通りの



福島 吉治

F&Kコンサルティング
取締役会長

シナジー効果をあげ、在任中に金融事業での収益が過半に至るまでになり、それは今も続いています。

彼が経営信条として最も大切にしたものはスピードだと思います。21世紀の情報化社会でそれは必須の条件とも言えます。全てをやり遂げた経営者の通信簿は何と言っても長期にわたる株式時価総額の拡大だと思います。81年就任時は120億ドルでしたが退任の少し前には約50倍の5,000億ドルにもなった訳で、もって瞑すべしです。日本の企業もやっとデフレを脱し21世紀への拡大に向かうところですが、BRICsをはじめとした新しい国際社会の枠組みを構築しなければならない今、日本は国を挙げての対応を迫られています。その中で企業は決断すれば直ちに実行出来るわけで、私にはこれからの日本にこそ、ウェルチの戦略性に富んだ経営は輝いて見えるのですが。

私の思い出写真館